

中京大学英米文化・文学会 秋季大会特別講演会

「日系カナダ文学に描かれる戦争」

梶山女学園大学教授 戸田由紀子氏

2019年11月21日午後4時40分より、中京大学名古屋キャンパス4号館442教室にて、大学院国際英語学研究科英米文化学専攻との共催で、梶山女学園大学教授の戸田由紀子氏を招いて秋季特別講演会が開催された。講師の戸田氏は現在日系カナダ文学における作家たちの軌跡について研究しており、今回の講演会では特に第二次世界大戦時におけるカナダでの日系カナダ人の強制収容の歴史に取材した戦争文学が採り上げられた。

戸田氏は同種の文学作品では既に古典的地位にある Joy Kogawa の *Obasan* (1981) から議論を始め、第二次世界大戦後のカナダにおいて、最初になされたのは日経カナダ人強制収容に関する地理的な記憶の抹消であったことを確認した。それらは実際に収容された作家の記憶の中にしか最早残らないものであり、その回想を記録として作品に留めることの意義について検証した。続いて Kerri Sakamoto の *One Hundred Million Hearts* (2003) に言及しつつ、戦時中のカナダにおいて、日系カナダ人であることが、強制収容の対象とされた日系の人々のみならず、カナダ国家全体にとっての「歴史の不愉快な側面」であり、それを巡って国家が逡巡と反省を繰り返してきたことが説明された。併せてこうした「自国民に対する差別的待遇」が、日系カナダ人と中国系カナダ人との間にも同様

の形で存在していたことを、Hiromi Goto の *Chorus of Mushrooms* (1994) を引いて確認し、そのうえで歴史の中の不愉快な記憶を乗り越えるために、「赦し (forgiveness)」が必要とされることを、Mark Sakamoto の *Forgiveness* (2014) に沿って述べた。カナダ文学に日ごろ触れることの少ない本学の大学院生・学部生にとって、非常に貴重で有意義な講演会となった。

本講演には、大学院生や学部学生を初めとして、学内外の研究者を含む一般来聴者も参加し、その数は三十有余名に及んだ。講演の最後では質疑応答もなされ、盛況のうちに終了した。

(中京大学国際学部英語圏文化専攻教授 森有礼)